

いるか否かで判断でき、この条件を満たしているときに局地不連続線が出現している例が多いことがわかった。同様な傾向は初冬に限らず、年間を通じたデータ解析結果からも得られた。ただし、南西から南よりの風の状態ではフルード数はさらに大きくなる例も認められた。

南西風の場合、フルード数が上の範囲よりもさらに小さくなると局地不連続線は認められなかった。この状態は関東平野部では局地循環としての海風が入っている状態に対応していた。北西風の場合、フルード数が上の範囲よりも大きいとき、不連続線はあったとしても東京湾からさらに南下しているか、冬の季節風が卓越している状態に対応していた。逆にフルード数が小さいときは局地循環としての陸風状態にあることがわかった。

なお、ここでは主に局地不連続線の成因を中部山岳との関係で議論したが、暖気の流入には陸域に比べ海水が相対的に高温であることの影響（近藤・水野、前出）や、北回りに山岳を越えた気流についてはフェーン現象による昇温効果などの影響も見受けられた。局地不連続線の形成に及ぼすこれらの影響について今後さらに詳しい検討が必要と考えられる。

参考文献

- 河村武, 1966: 中部日本における冬の地上風系一特に冬の季節風に関連して, 地学評論, 38.
- Kimura, F and S. Arakawa, 1983: A numerical experiment on the nocturnal low level jet over Kanto plain, J. Meteor. Soc. Japan, 61, 848-861.
- Kondo, H, 1989: Description of NRIPR meso-scale model, Technical Report No. 44, National Research Institute for Pollution and Resources, pp 72.
- 近藤裕昭, 水野建樹, 1990: NOx 濃度はなぜ12月に高くなるか, 公害, 25, 25-33
- 水野建樹, 北林興二, 1984: 都市大気中における浮遊粉塵の動態(その1), 公害, 19, 359-367.
- 水野建樹, 近藤裕昭, 松川宗夫, 1990: 関東平野において初冬に粉じんが極めて高濃度になる気象条件について, 大気汚染学会誌, 25, 143-154.
- 下形茂雄, 水野建樹, 吉門洋, 1991: 小型船舶による初冬高濃度時における東京湾上大気汚染の観測, 公害, 26, 41-54
- 杉浦茂, 1974: 関東地方を通過する寒冷前線の局地解析, 天気, 21, 39-45.
- 吉野正敏, 1986: 小気候, 地人書院, p 213-217



教官公募について

高知大学教育学部では地学担当の助教授1名を公募しています。専門領域はいわゆる地学(宇宙物理学, 地球物理学を含む)で特定はしません。ご希望の方は連絡願います。

担当科目: 地学及び地学実験(コンピュータの活用を含む)など, その他地学に関連した講義, 実験

応募条件: ア) 着任時に博士の学位を有する方
イ) 大学院教育学研究科(修士課程)が設置された場合, 大学院の講義, 演習を担当できる方

年齢: 30歳位から35歳位まで(着任時現在)

応募期限: 1993年5月6日(必着)

採用予定: 1993年10月1日

提出書類: 履歴書, 研究業績, 健康診断書, 成績証明書, 卒業, 修了証明書など

提出先: 高知市曙町2-5-1 高知大学教育学部長

照会先: 郵便番号780 高知市曙町2-5-1 高知大学教育学部理科教室 山口信之
(電話 0888-44-8417 FAX 0888-44-8453)